

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (1/5)

学部・学科	総合社会学部・総合社会学科		職名	講師	氏名	川嶋 伸佳 カワシマ ノブヨシ		
学歴	平成18年 3月 立命館大学文学部心理学科心理学専攻 卒業 平成20年 3月 東北大学大学院文学研究科人間科学専攻心理学専攻分野博士課程前期 修了 平成24年 3月 東北大学大学院文学研究科人間科学専攻心理学専攻分野博士課程後期 修了							
学位	平成20年 3月 文学修士 (東北大学 文修第2886号) 平成24年 3月 文学博士 (東北大学 文博第408号)							
専門分野	社会心理学							
専門資格								
所属学会	平成18年 4月 東北心理学会 平成19年 3月 日本社会心理学会 平成21年 2月 日本心理学会 平成21年 7月 Society for Personality and Social Psychology (SPSP)							
受賞								
担当授業科目	学 部 総合社会学基礎演習【メディア・社会心理クラス】、総合社会学演習、総合社会学実習D							
論文指導	該当なし							
F D 活 動 ・ 教 育 実 績	科目名	総合社会学基礎演習 【メディア・社会心理クラス】	科目カテゴリー	講義・演習・実習・実験	実施学期	春・秋	履修者数	約10名
	授業の概要：各コースでの専門科目や専門演習の学習に必要なアカデミック・スキルを修得する。							
	教育活動の振り返り 教育活動の成果： 1 教科書の輪読、発表、討論、およびレポート作成を通じて、専門的な学びに必要とされる基本的なスキル（特に、文献をまとめ、問いを発見し、それに回答する力）を向上させることができた。実際、授業をよりよくするためのアンケートにおいて「シラバスに示された目的・目標に向かって進歩」したかという問いに対して受講生の9割近くが「そう思う」「少し思う」と回答していた。							
	今後の課題： 討論の際、議論がうまく深まらないことがあった。教員側で事前に議題を準備するなど、改善が必要である。							
F D 活 動 ・ 教 育 実 績	科目名	総合社会学演習	科目カテゴリー	講義・演習・実習・実験	実施学期	春・秋	履修者数	約10名
	授業の概要： 集団、組織、社会、文化との関わりの中で、私たちの態度、信念、価値観、さらには行動はどのように形作られるのか考えることを通して、社会心理学の基本的な知識と考え方を学ぶ。							
	教育活動の振り返り 2 教育活動の成果： 前半は教科書を輪読し、社会心理学的研究の流れについて理解を促した。後半はグループで設定したテーマに関する発表課題を通して、問いに対して客観的・論理的な答えを与えるという研究の一連の過程を実際に経験してもらうことができた。							
	今後の課題： 発表テーマが教科書で扱った内容に限定される傾向にあった。異なる切り口を紹介するなど、受講生の興味・関心の幅を広げる努力が必要である。							

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (2/5)

<p>F D 活動実績</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学内外のFD関連講演会/セミナー等への参加実績 ・京都文教大学内の第1回FD講演会「京都文教大学の初年次教育を考える ジェネリック・スキルを育てるための科目間連携」発題者：手嶋英貴氏（京都文教大学・総合社会学部・准教授）に参加した。 ・京都文教大学内の第2回FD研修会「授業と評価をつなぐ為に～ルーブリック評価入門～」講師：井上史子氏（帝京大学・高等教育開発センター・教授）に参加した。 <p>・教育効果が高い、あるいは教育の一環として行われている課外活動等 正規授業時間外での学生相談・指導を行った。</p>
<p>H26 年度研究課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会的不平等と公正 2. 組織的公正と精神的健康 3. 復興計画の受容構造に関する研究 4. 量刑判断における公正
<p>平成二十六年(2014)年度の 研究活動の概要</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本人の社会的比較傾向と社会階層および公正感との関連を分析し、日本社会心理学会にて発表を行った。また、現在参加している特別推進研究「少子高齢化からみる階層構造の変容と格差生成メカニズムに関する総合的研究」2015年SSM調査研究（社会階層と社会移動調査研究会）代表者：東京大学・大学院人文社会系研究科・教授 白波瀬佐和子 の全体会議にて議論を行った。 2. 論文化に向けて取得済みデータの分析を進めた。 3. 調査実施に向けて、共同研究者との打ち合わせおよび調査予定地域での情報収集を行った。 4. 裁判員と第三者（TV視聴者）という立場の違いが量刑判断に及ぼす影響についてシナリオ実験によって検討し、その成果を法と心理学会にて発表した。 (1、4については、以下の「学会報告、学会活動」欄に詳細を記載した。)
<p>平成二十六年(2014)年度の 主な研究成果等</p>	<p>(著書)</p> <p>(論文)</p> <p>(学会報告、学会活動)</p> <p>口頭報告：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「社会階層とミクロ不公正感：社会的比較の効果の検討」、共同、平成26年7月、共同研究者：大淵憲一、日本社会心理学会第55回大会、北海道大学 2. 「決定者と評価者における立場の違いが量刑判断に与える影響」、共同、平成26年10月、共同研究者：板山昂・上原依子・佐伯昌彦・滑田明暢・若林宏輔・綿村英一郎、法と心理学会第15回大会、関西学院大学 <p>(その他、エッセイ・翻訳・学術講演等)</p> <p>(調査活動)</p> <p>(学外研究資金による研究活動・科学研究費補助金等含)</p> <p>(学内活動)</p> <p>学生委員会オブザーバー</p>
<p>平成二十六年(2014)年度の 社会における活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・東北文化学園大学非常勤講師（人格心理学）「平22.4-平26.9」 ・東北大学大学院文学研究科行動科学研究室助教「平24.4-平26.9」 ・放送大学宮城学習センター非常勤講師（初歩からのパソコン）「平25.4-平26.4」 ・東北大学文学部（行動科学演習）・東北大学大学院文学研究科（計量行動科学研究演習）非常勤講師「平27.2（集中講義）」
<p>平成二十一年(2009)～ 二十五年度の 主な研究成果等</p>	<p>(著書)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Chapter2 Social Inequality and Sense of Fairness in Japan: Multi-Level Sense of Fairness, Social Ideals and Rationalization、単著、平成23年、大淵憲一・浅井暢子共編、Inequality, Discrimination, and Conflict in Japan: Ways to Social Justice and Cooperation、Melbourne: Transpacific Press. (pp.22-40)

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (3/5)

(著書 つづき)

2. 「第2章 社会心理学から心の文化差へ」、単著、平成24年9月、新曜社、サトウタツヤ・若林宏輔・木戸彩恵編、『社会と向き合う心理学』(pp.21-32)
3. 「第14章 不平等と公正感」、共著、平成25年3月、共著者：大淵憲一、ミネルヴァ書房、佐藤嘉倫・木村敏明編著、『不平等生成メカニズムの解明 格差・階層・公正』(pp.299-320)

(論文)

1. 「日本の伝統的価値尺度の作成：仏教、儒教、神道・国学思想に基づいて」、共著、平成21年9月、共著者：大淵憲一、東北大学文学会 文化第73巻第1・2号 (pp.110-140)
2. 「現代日本人による伝統的価値の受容：社会属性との関連」、共著、平成22年3月、共著者：大淵憲一、東北大学文学会 文化第73巻第3・4号 (pp.21-46)
3. 「社会階層と公正感：多元的公正判断と社会的属性の関係」、共著、平成22年3月、共著者：大淵憲一・熊谷智博・浅井暢子、東北大学文学会 文化第73巻第3・4号 (pp.83-99)
4. 「日本における社会的な不平等の正当化：体制正当化理論の検証」、共著、平成22年3月、平成19-21年度科学研究費補助金(萌芽研究)「日本思想からみた正義・公正観念：社会心理学的検討」(課題番号19653060, 研究代表者：東北大学・大学院・文学研究科・教授 大淵憲一)研究成果報告書 (pp.113-125)
5. 「社会的な不平等とミクロ公正感：不公正感受性の効果」、共著、平成23年10月、共著者：大淵憲一・熊谷智博・浅井暢子、法と心理学会 法と心理第11巻1号 (pp.47-57)
6. 学位論文「社会的な不平等と公正感：ミクロ公正感因果モデルの検討」、単著、平成24年1月、東北大学大学院文学研究科に提出 (182p)
7. 「多元的公正感と抗議行動：社会不変信念、社会的効力感、変革コストの影響」、共著、平成24年1月、共著者：大淵憲一・熊谷智博・浅井暢子、日本社会心理学会 社会心理学研究第27巻2号 (pp.63-74)
8. 「ミクロ公正感と社会階層：ふさわしさ知覚の効果の検証」、単著、平成24年12月、Center for the Study of Social Stratification and Inequality(CSSI) Working Paper Series No3

(学会報告、学会活動)

国内学会：

1. 「日本における社会的な不平等の正当化方略：体制正当化理論の検証」(ポスター発表)、共同、平成21年8月、共同研究者：大淵憲一・佐藤嘉倫、日本心理学会第73回大会、立命館大学(発表論文集 p.295)
2. 「社会と集団成員性に関する信念が差別認識に与える影響」(ポスター発表)、共同、平成21年8月、共同研究者：浅井暢子・唐沢穰・熊谷智博、日本心理学会第73回大会、立命館大学(発表論文集p.285)
3. 「抗議行動の規定因：不公正感、社会不変信念、社会的効力感、変革コストの影響」(ポスター発表)、共同、平成21年10月、共同研究者：熊谷智博・浅井暢子・大淵憲一、日本社会心理学会第50回大会・日本グループ・ダイナミクス学会第56回大会合同大会、大阪大学(発表論文集p.808-809)
4. 「集団内公正が集団間不公正認知に与える効果」、共同、平成21年10月、共同研究者：熊谷智博・浅井暢子、日本社会心理学会第50回大会・日本グループ・ダイナミクス学会第56回大会合同大会、大阪大学
5. 「社会的な不平等と社会に対する知覚の関係：マクロ公正感の要因」(ポスター発表)、共同、平成22年9月、共同研究者：大淵憲一、東北心理学会第64回大会、宮城学院女子大学
6. 「日本における不平等の合理化機構：社会に対する信念がマクロ公正感に及ぼす効果」(ポスター発表)、共同、平成22年9月、共同研究者：大淵憲一、日本社会心理学会第51回大会、広島大学(発表論文集p.326-327)
7. 「ミクロ公正感の要因：社会的地位と不公正への敏感さの効果」、単独、平成22年10月、法と心理学会第11回大会、立命館大学

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (4/5)

(学会報告、学会活動 つづき)

8. 「社会的な不平等とマイクロ公正感：公正関心の多様性の基づく検討」(ワークショップ「『関係性』に注目した公正概念の検討 手続きなのか人間関係なのか」話題提供者、口頭発表)、単独、平成23年9月、日本社会心理学会第52回大会、名古屋大学
9. 「階層帰属意識とマイクロ公正感」(ポスター発表)、共同、平成23年9月、共同研究者：大淵憲一、日本社会心理学会第52回大会、名古屋大学(発表論文集p.224)
10. 「多元的不公正感が抗議行動の実施に与える影響：社会経済的地位に基づく検討」(ポスター発表)、単独、平成24年7月、東北心理学会第66回大会・新潟心理学会第49回大会合同大会、新潟大学
11. 「メディアへの接触が多元的不公正感に与える影響」(ポスター発表)、単独、平成24年11月、社会心理学会第53回大会、つくば国際会議場(発表論文集p.351)
12. 「職場における不公正経験の特徴の検討」(ポスター発表)、共同、平成25年5月、共同研究者：林洋一郎・大淵憲一、東北心理学会第67回大会、東北工業大学八木山キャンパス
13. 「職場の内集団および自己に対する不公正な処遇が精神的健康に与える影響」(ポスター発表)、共同、平成25年11月、共同研究者：林洋一郎・大淵憲一、社会心理学会第54回大会、沖縄国際大学(発表論文集p.169)
14. 「災害復興計画策定に関わる合意形成の難航要因とその構図：東日本大震災を題材に」(口頭発表)、共同、平成25年11月、共同研究者：青木俊明・奥村誠、土木計画学研究、大阪市立大学(講演集Vol.48, 88)

国際学会等：

1. The effects of intranational justice on the sense of international injustice.、共同、平成21年6月、共同研究者：熊谷智博・浅井暢子、22nd Annual International Association for Conflict Management Conference, Kyoto, Japan.
2. Perceptions of unfairness and social protests among Japanese: Effects of social-economic and social psychological variables.、単独、平成21年7月、Tohoku-Stanford Summer School (仙台)
3. Perceptions of unfairness and social protests among Japanese: Effects of the immutability belief. (ポスター発表) 共同、平成22年1月、共同研究者：大淵憲一・熊谷智博・浅井暢子、The 11th Annual Meeting of the Society for Personality and Social Psychology. (ラスベガス) (発表論文集p.410)
4. Recognizing personal experiences of discrimination: Impact of essentialist beliefs of group differences and social structure. (ポスター発表) 共同、平成22年1月、共同研究者：大淵憲一・熊谷智博・浅井暢子、The 11th Annual Meeting of the Society for Personality and Social Psychology. (ラスベガス) (発表論文集p.338)
5. Who feel a sense of unfairness?: The Relationship between Socioeconomic Status and Micro Unfairness in Japan.、単独、平成22年3月、The Fourth International Symposium on Frontiers of Sociological Inquiries by Young Scholars in Asia. (仙台)
6. Social Inequalities and Psychological Well-being in Japan: The Effects of Micro and Macro Fairness.、単独、平成22年12月、The International Symposium “ Social Inequality and Justification of It. ”(東京)
7. Micro fairness mediates the relationship between social inequalities and psychological well-being. (ポスター発表) 共同、平成23年1月、共同研究者：大淵憲一、The 12th Annual Meeting of the Society for Personality and Social Psychology.(サントアントニオ(アメリカ))(発表論文集p.148)
8. Social Stratification and Micro Fairness: Mediation by the Perception of Inequality of Outcomes and Opportunities and That of Respect.、単独、平成24年2月、Workshop on the Frontiers of Social Research (香港)

国際・国内シンポジウム運営等：

1. 「Intergroup Conflict and Social Identity: Impact of History, Continuity and Stability of Group」(司会)、平成22年11月、東北大学大学院文学研究科グローバルCOEプログラム「社会階層と不平等教育研究拠点」主催、東北大学

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (5/5)

平成二十一～二十五 (2009～2013) 年度の主な研究成果等	(学会報告、学会活動 つづき) 2. 「Social Inequality and Justification of It」(企画・運営)、平成22年12月、東北大学大学院文学研究科グローバルCOEプログラム「社会階層と不平等教育研究拠点」主催、東北大学東京分室 3. 「若手研究者のための公正研究ワークショップ」(企画・運営)、平成23年3月、東北大学大学院文学研究科グローバルCOEプログラム「社会階層と不平等教育研究拠点」主催、東北大学 4. 公正研究部門特別ワークショップ「社会的関係と公正 組織、文化の視点から」(企画・運営および司会)、平成25年2月、東北大学大学院文学研究科グローバルCOEプログラム「社会階層と不平等教育研究拠点」主催、法政大学
	(その他、エッセイ・翻訳・学術講演等)
	(調査活動)
	(学外研究資金による研究活動・科学研究費補助金等含) 平成20年度-平成22年度 日本学術振興会特別研究員奨励費DC1、「不平等の受容と国不変信念：システム脅威と社会階層の影響」研究代表者 平成23年度 東北大学大学院文学研究科グローバルCOEプログラム「社会階層と不平等教育研究拠点」リサーチ・アシスタント 平成24年度 東北大学大学院文学研究科グローバルCOEプログラム「社会階層と不平等教育研究拠点」事業推進担当者
	(学内活動)
平成二十一～二十五 (2009～2013)年度の 社会における活動	平成22年 4月 東北文化学園大学非常勤講師 心理学基礎実験 「平24.3まで」、心理学基礎実験「平24.3まで」、人格心理学「平26.9まで」、社会心理学「平26.3まで」
	平成23年 4月 東北大学大学院文学研究科行動科学研究室リサーチ・アシスタント(研究助手)「平24.3まで」
	平成24年 4月 東北大学大学院文学研究科行動科学研究室助教「平26.9まで」
	平成25年 4月 放送大学宮城学習センター非常勤講師(初歩からのパソコン)「平26.4まで」